

サステナビリティ(持続可能性)の取組・
環境キャンペーン補助金・SDGs貢献アプリに関する
アンケート報告書(速報)

2026年1月21日

公益財団法人日本セーリング連盟 環境委員会

1. 調査概要

2. 調査結果

(1) 基礎情報

① 団体種別

② 団体類型

(2) JSAFの方針・取組等の認知

① JSAFの方針・取組の認知度

② JSAF環境委員会のアプリ利用・情報閲覧

(3) 団体の取組状況

① 環境保全活動のための指針設定の有無

② 環境保全への取組みの重圧・期待

③ 取組の種類

④ 取組内容

⑤ 取組み決定のプロセス

⑥ 有効なインセンティブ(経済インセンティブ以外)

⑦ セーリング大会での環境負荷源の知識の有無

⑧ 認識していなかった環境問題・対策

⑨ 不要になったセールの処理方法

(4) 団体の取組みの可能性・課題・必要なサポート

① 今後の取組実施可能性

② 「残したいのはきれいな海」を実現のために一番困っていること

③ 有効なサポート

④ 意見・要望

3. 調査結果を踏まえた方向性(案)

1. 調査概要

実施機関	公益財団法人日本セーリング連盟環境委員会
名称	サステナビリティ(持続可能性)の取組・環境キャンペーン補助金・SDGs貢献アプリに関するアンケート
配布対象	加盟団体・特別加盟団体 141団体 及び傘下団体・関連団体
配布方法	メール配信
回収方法	WEB回答フォーム
調査期間	2025年12月22日～2026年1月7日
回収数・回収率	49団体 うち加盟団体・特別加盟団体 46団体(回収率32.6%)
設問内容	(1)基礎情報 (2)JSAFの方針・取組の認知 (3)団体の取組状況 (4)団体の取り組みの可能性・課題・必要なサポート

2. 調査結果

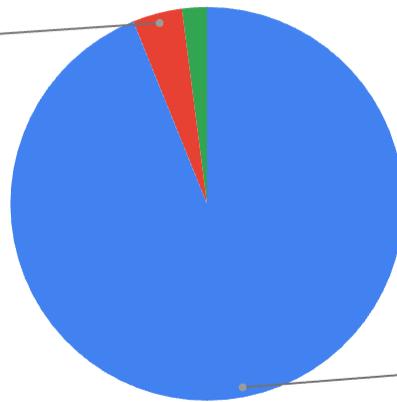
(1) 基礎情報

① 団体種別

団体種別では93.9%(46団体)が加盟・特別加盟団体である。

団体種別（加盟団体・特別加盟団体）

加盟・特別加盟団体の傘下の団体
4.1%



加盟・特別加盟団体
93.9%

② 団体類型

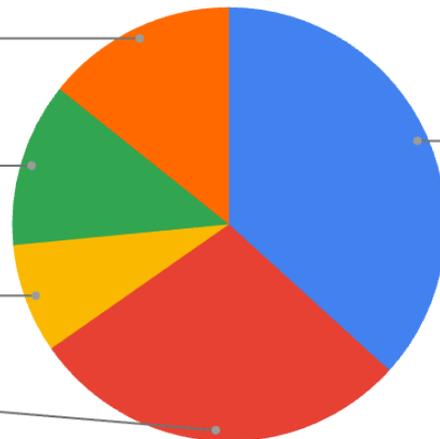
団体類型

ヨットクラブ他
14.3%

外洋団体
12.2%

階層別協会
8.2%

艇種別協会
28.6%



都道府県連
36.7%

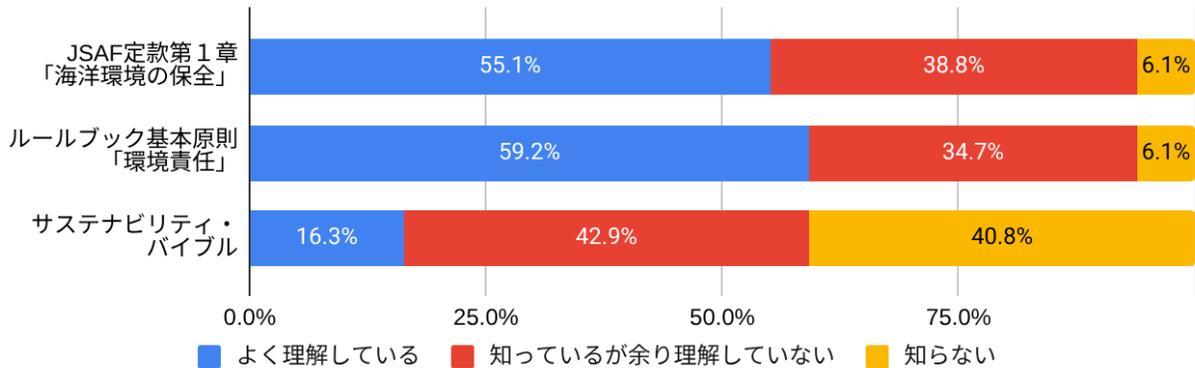
(2) JSAFの方針・取組等の認知

① JSAFの方針・取組の認知度

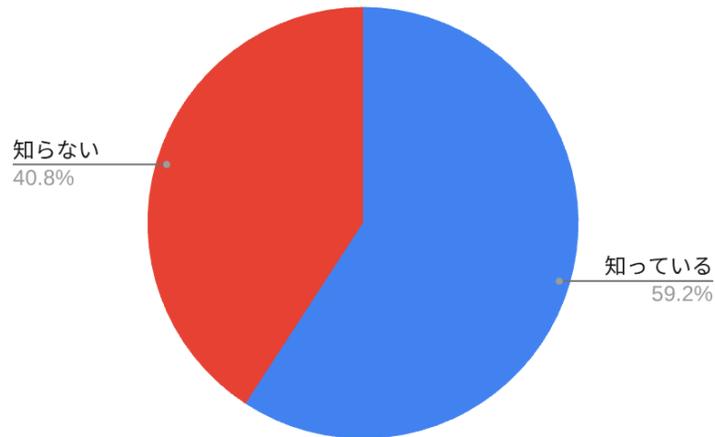
JSAF定款第1章「海洋環境の保全」及びルールブック基本原則「環境責任」の認知度は、知っているが9割強、よく理解しているが半数を超えている。一方、サステナビリティ・バイブルの認知度は、4割が知らないと回答した。

また、SDGs貢献アプリ使用の環境キャンペーン補助金支給要件の認知度は、4割が知らないと回答した。

JSAFの方針・取組の認知度



SDGs貢献アプリ使用の環境キャンペーン補助金支給要件の認知度要件

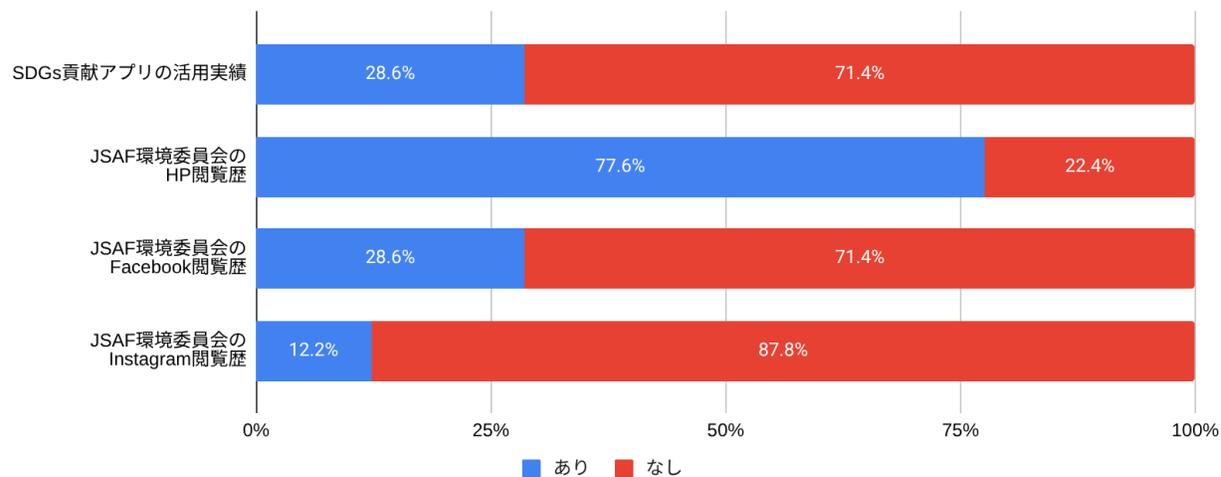


②JSAF環境委員会のアプリ利用・情報閲覧

SDGs貢献アプリ利用は3割弱に留まっている。

JSAF環境委員会の情報閲覧については、ホームページが8割弱である一方、SNSのうちFacebookは3割弱、Instagramは1割強である。

JSAF環境委員会のアプリ利用・情報閲覧

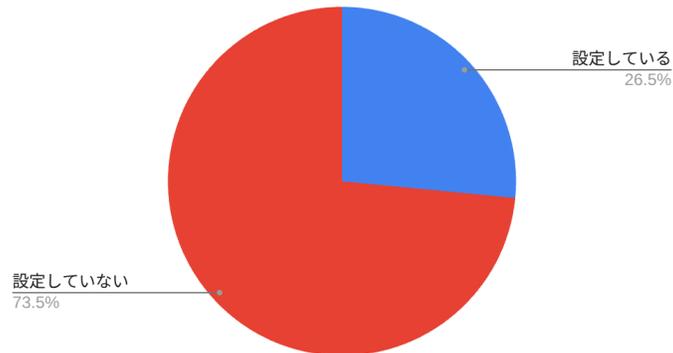


(3) 団体の取組状況

① 環境保全活動のための指針設定の有無

環境保全活動のための指針は、3割弱が設定している。

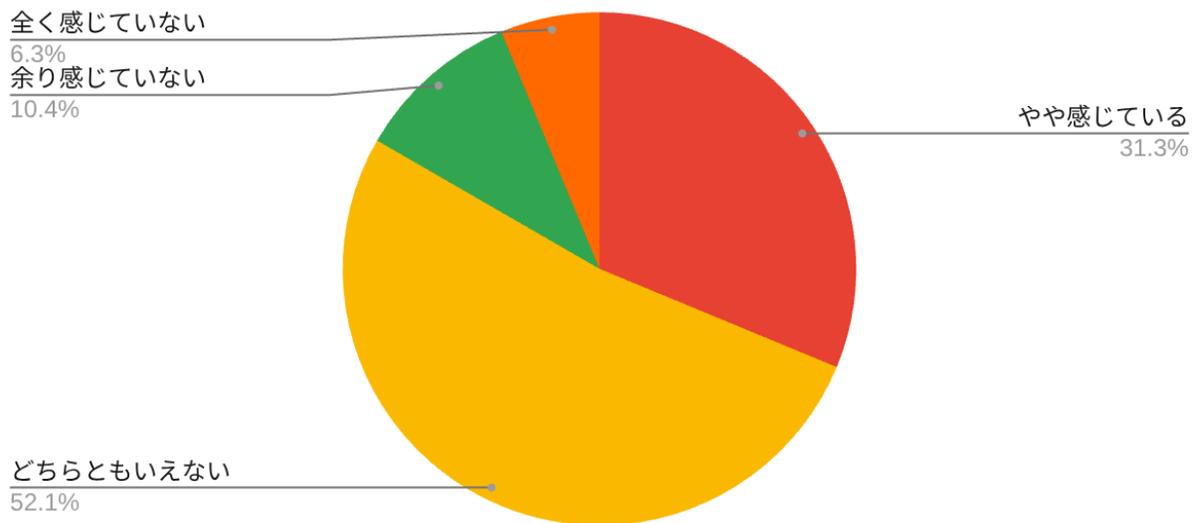
環境保全活動のための指針設定の有無



② 環境保全への取組みの重圧・期待

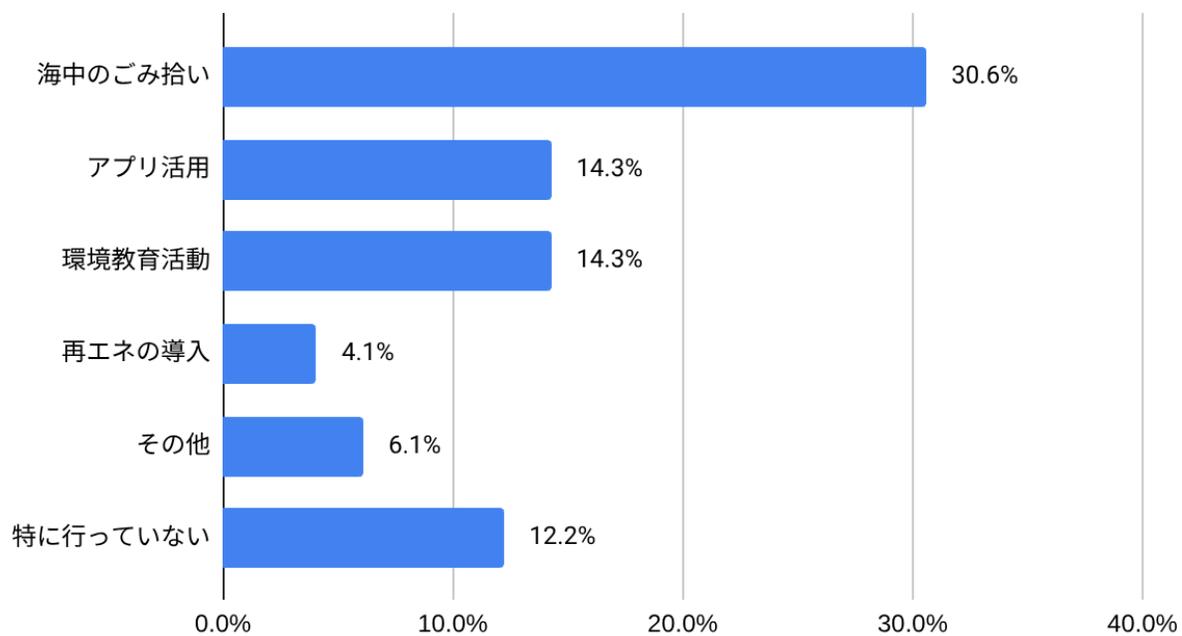
環境保全への取組みの重圧・期待は「とても感じている」団体は無く、「やや感じている」が3割、「全く感じていない」「あまり感じていない」が合わせて2割弱で、「どちらともいえない」が5割強である。

環境保全への取組みの重圧・期待



③取組の種類

運営大会での環境保全の取り組みの種類（MA）



④取組内容

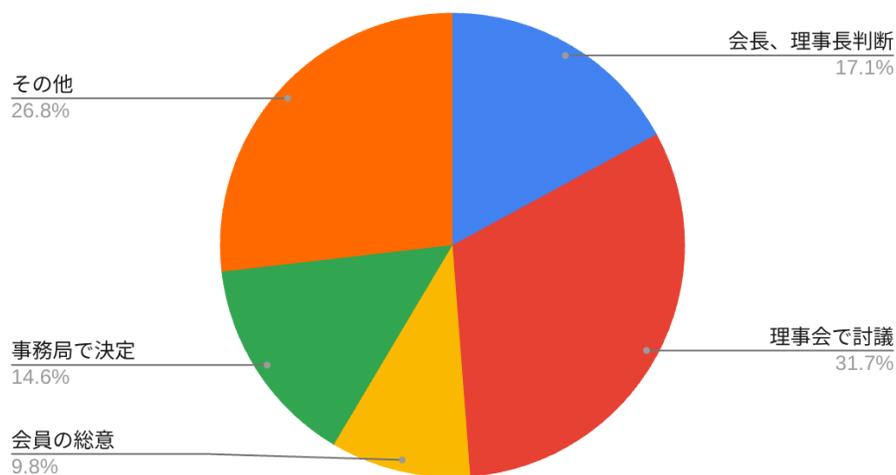
団体名	取組内容
JSAF レディース委員会 関東学生ヨット連盟	大会ごとのビーチクリーン
南北海道外洋帆走協会	年に一度ハーバー内の草刈りやゴミ拾いを実施
NPO法人 滋賀県セーリング連盟	県立柳が崎ヨットハーバーにおいて自販機のペットボトル回収箱を除いてゴミ箱は設置していない。(ゴミの持ち帰りが原則)
一般社団日本ウインドサーフィン協会	大会毎に参加全員でビーチクリーンを行う
公財)広島県セーリング連盟	1. ビーチクリーン 2. 使用済みセールの活用
一般社団法人 葉山マリーナヨットクラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・葉山マリーナヨットクラブでは、過去長年にわたり米国NGOである”Sailors for the Sea (SFS)”との協働によりクリーンレガッタの実践を目指してきている。例えばマーク・ポッドのNippon Cupでの導入、月次のクラブレースの一つをSFS協賛レースとし、パーティーでサステナブル・シーフードを活用。 ・ペットボトル削減は株式会社葉山マリーナとも協働し3年前から自動販売機での販売を停止した。 ・SDG取り組みとしては、障害者施設との連携によりセーリング体験を年1回実施している。
セーリングスピリッツ協会	全日本選手権でのチャーターボートの準備を行なっている。
K16クラス協会	早稲田マリンヨットクラブ K16 1110号艇復活プロジェクト
外洋南九州	会員に率先して取り組ませているわけではなく、常識の範囲内でハーバー内およびビーチクリーン活動、脱プラ(マイボトル持参)などを行っている
鹿児島県セーリング連盟	海上運営の弁当を、おにぎりや丼ものにする事で、なるべく箸袋やソースなど、使用後に海へ飛びそうな物を少なくしています。
山口県セーリング連盟	イベント時に他団体と協力して廃材や自然ゴミを活用したクラフトを参加者・関係者に体験していただいたり、参加賞として提供して環境保全を啓発している。
島根県ヨット連盟	漂着ごみの回収
東京ヨットクラブ	マイクロプラスチックの回収と調査
日本ホビークラス協会	<p>題52回ホビーキャット16級全日本選手権大会(2025年10月18日～10月19日 於:葉山新港/森戸海岸)において、本大会がJSAF SAILING SERIESとして採用が決まりMSB(マーク・セット・ボット)の使用が可能となり、海上においての運営人員の削減、及び運営船からのCO2排出減少で環境への影響を考慮出来たかと思えます。</p> <p>陸上の砂浜では環境キャンペーンの横断幕(協力作成も含む)を掲揚してアピールしました。広報的には舵1月号にレポートを掲載させていただいております。</p>

団体名	取組内容
福島県セーリング連盟	現在では、練習日に悪天候時にごみを拾う活動程度となっている。
外洋西内海	今年から始める予定
一般社団法人日本パラオ青少年セーリングクラブ	ホームページ上で公開しています
一般社団法人日本カイトボード連盟	海岸の清掃
中部学生ヨット連盟	地道な活動ですが、以前からペットボトルキャップの回収を行い、発展途上国へワケチンを送る取り組みに協力をしています。これに加え、ペットボトルの分別回収を始めており、特にラベルまで外すようにPRしております。ただ、実際にはなかなか浸透していかない現状もあります。そのような事もあり、ペットボトルからそもそも脱却すること、そのために熱中症予防も兼ね大会においては、お茶や水の提供を始めております。まだまだ定着していませんが、引き続き続けていく予定です。
関東学生ヨット連盟	ウォーターサーバーを取り入れ、ペットボトル購入率を大幅に下げました。分別100%を目指し昨年よりも多くのゴミ箱を設置し、ごみ収集システムを作成しました。

⑤ 取り組み決定のプロセス

(n=28)

取り組み決定のプロセス

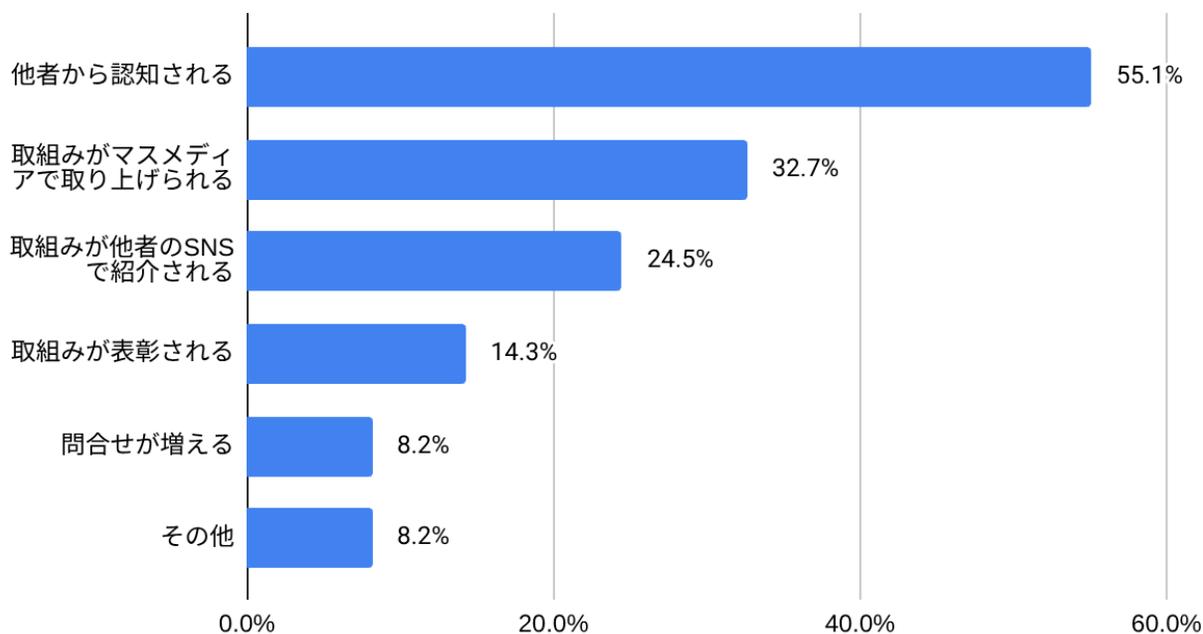


<その他回答>

- 特に決めていない・取組を行っていない(無回答として取扱い)
- マリーナ運営会社と競技
- 各委員会に任せている
- 全日本委員長の私がハーバーの方と話し、昨年より分別できるシステムを話し、学連委員の方々にゴミ箱購入などの許可を得た

⑥有効なインセンティブ(経済インセンティブ以外)

有効なインセンティブ (経済インセンティブ以外)



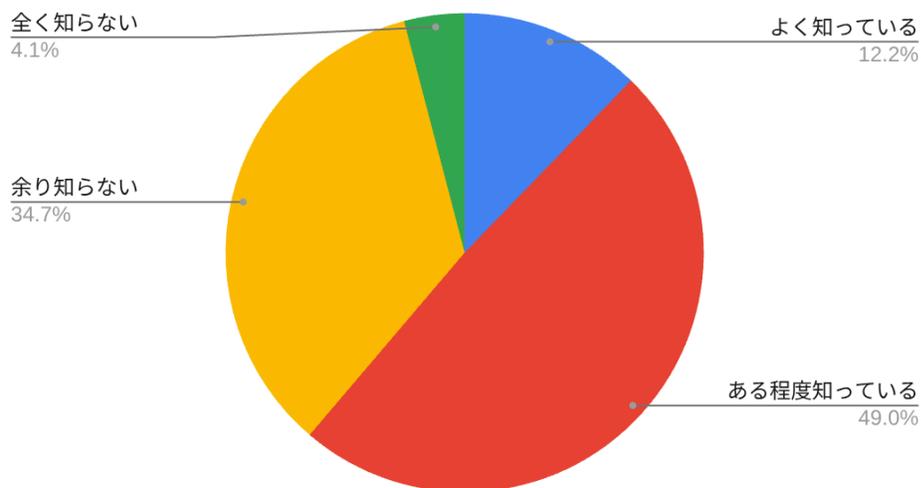
<その他回答>

- 実体のある環境保全活動が必要であり、グリーン・ウォッシュを予防する意味でも第3者評価が必要と考える。
- 競技運営で、何を実施すると、どのように環境に好影響を与えるのか、もしくは悪化を防げるかなどの具体的な数値による情報提供
- 自分たちのメリットになる(マイボトル用の飲み物提供がしやすくなる環境など。取り組んでいる団体に飲料メーカーなどから飲み物(ペットボトルではなく麦茶パックや保冷材など)が提供される。)

⑦セーリング大会での環境負荷源の知識の有無

「よく知っている」「ある程度知っている」が合わせて61.2%で6割強となり、「余り知らない」「全く知らない」を合わせた38.8%を上回った。

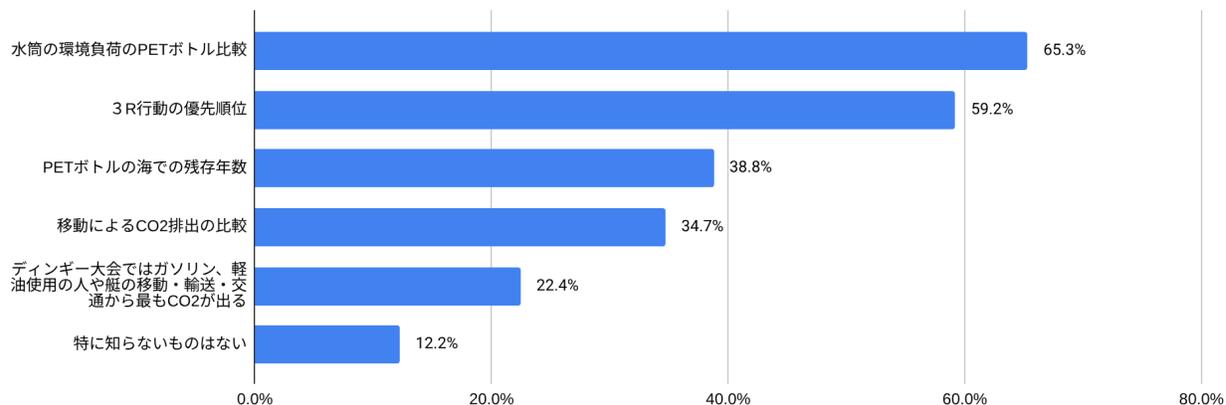
セーリング大会での環境負荷源の知識の有無



⑧認識していなかった環境問題・対策

「水筒の環境負荷のPETボトル比較」が65.3%で最も多く、次いで「3R行動の優先順位」が59.2%で、いずれも6割程度と高かった。

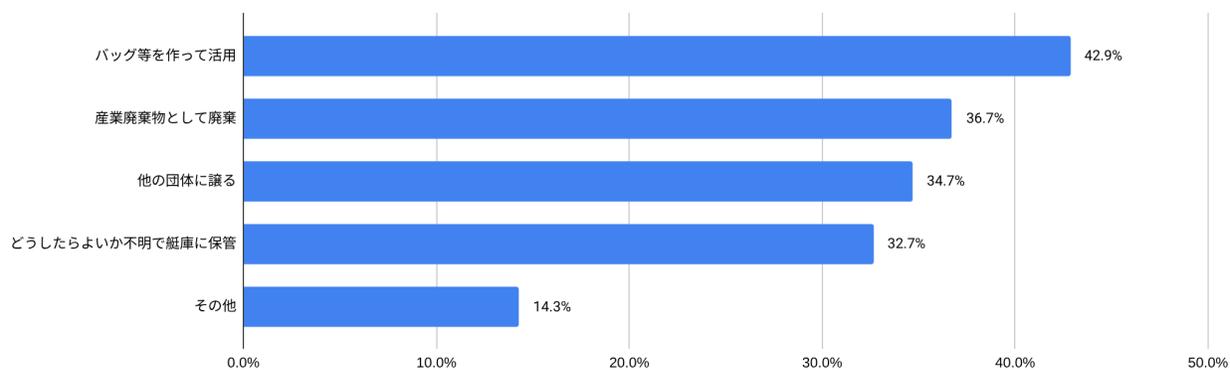
認識していなかった環境問題・対策



⑨不要になったセールの処理方法

「バッグ等を作って活用」が42.9%、「他の団体に譲る」が34.7%である一方で、「産業廃棄物として廃棄」が36.7%、「どうしたらよいか不明で艇庫に保管」が32.7%に上っている。

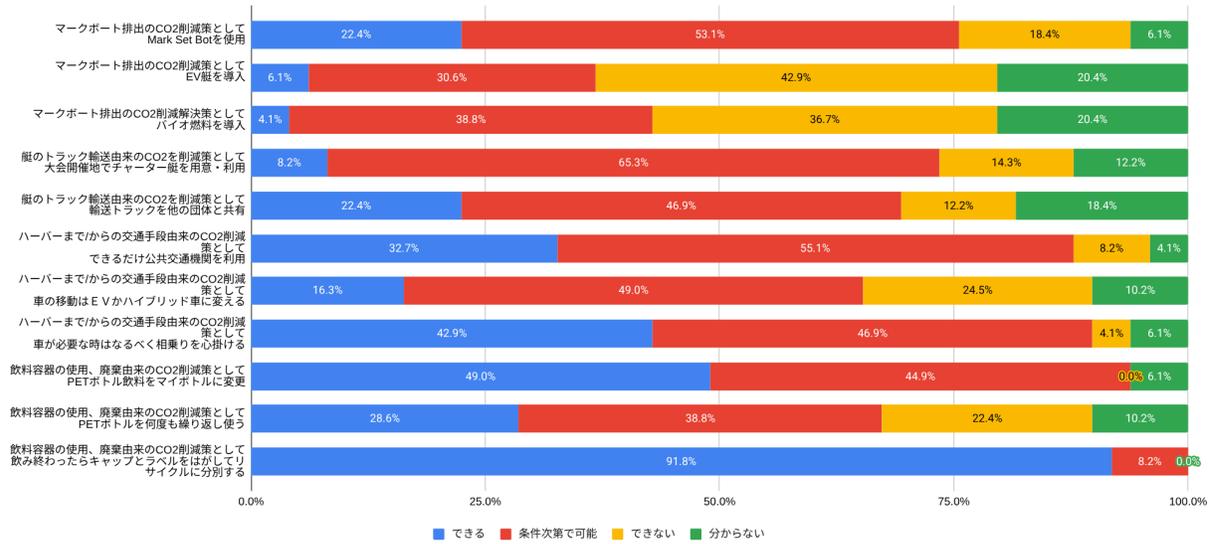
不要になったセールの処理方法



(4) 団体の取り組みの可能性・課題・必要なサポート

① 今後の取組実施可能性

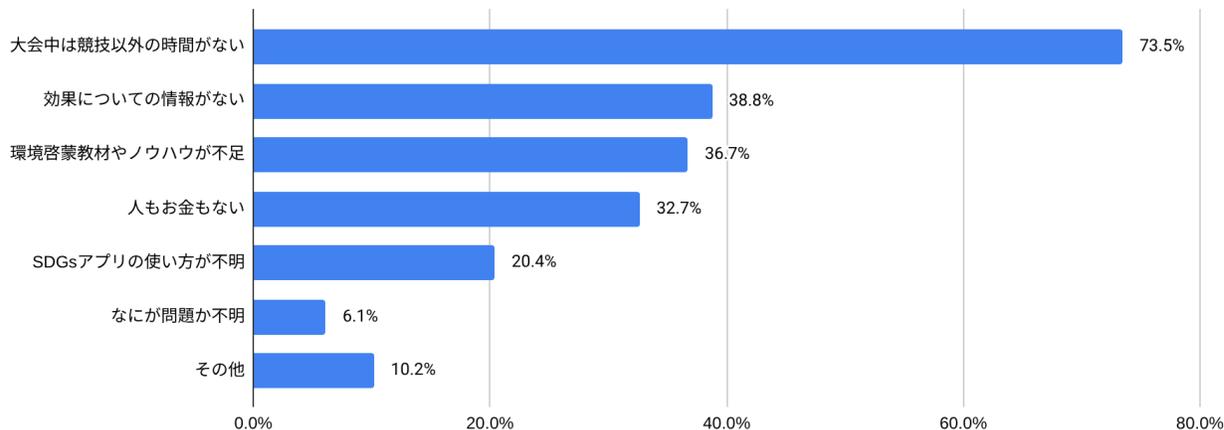
運営大会等での環境保全活動の実施可能性



②「残したいのはきれいな海」を実現のために一番困っていること

「大会中は競技以外の時間がない」が73.5%と最も多く7割強である。次いで「効果についての情報がない」が38.8%、「環境啓蒙素材やノウハウが不足」が36.7%と4割程度である。

「残したいのはきれいな海」を実現のために一番困っていること



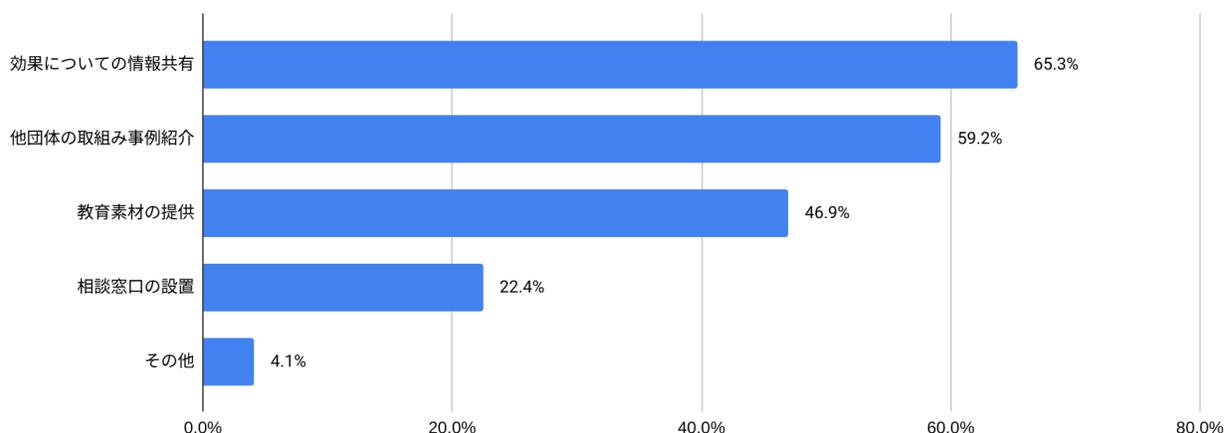
<その他回答>

- 大会中選手、運営はレースに集中してしまうため、そこをどうするかが課題
- 環境負荷を下げるための継続的な取り組みのひな型等あれば嬉しいです。
- 困ることはありませんが、周知徹底することが難しい面がある
- 環境改善はもちろんいいことだと認識してます。しかし、その多くは楽をして環境改善をしたいと思ってます。いかに楽をされるか？いかに見返りを感じさせられるかが課題だと思います。

③有効なサポート

「効果についての情報共有」が65.3%で最も多く、次いで「他団体の取組事例紹介」が59.2%といずれも6割程度、「教育素材の提供」が46.9%で半数程度で、実現の課題に対応した要望が上がっている。また、「相談窓口の設置」が22.4%で、その他回答での人材育成・派遣の支援も要望があり、専門知見・相談など人材育成・派遣も求められている。

「残したいのはきれいな海」の実現に向けた必要なサポート



<その他回答>

- 推進人材の育成
- 環境配慮への人員派遣

④意見・要望

- 当クラブはキールボート・オーナーが中心の団体であり、一般のディンギーセーリングとは異なるカテゴリーにあると思いますが、環境保全活動は共通の課題でありますので、引き続き積極的に推進していきたいと考えております。
- 環境への負荷を減らす活動はディンギー愛好会に必須と思います。それには具体的が取り組みの仕方(例えば他の団体の取り組み事例の紹介等)と継続的な取り組みが必要なのでテンプレート的なひな型を頂き活動を進め、アップデートしながら継続できるようにしたいと思います。
- 団体として特に取り組みをしていませんので私の個人的考えとして回答しました。個人的には「残したいのはきれいな海」のスローガンが好きでそれに向けた取り組みをしているつもりです。
- 大会への自艇参加と、海上での安全を優先した場合、CO2削減に近づけることは困難であり、悩ましい問題です。地道にできることとして、毎週の練習で海上のごみを拾う活動を全員で続けることはとても大切なことと考えます。
- セーリングを何かの手段として用いるのではなく、セーリングスポーツ自体へのリスペクトや愛着を育む(普及?)ことにより環境教育は自然と馴染むのではと考える。
- 環境キャンペーン横断幕について他協会への送付をすることによって横のつながりが出来て良いと思います。
- ゴみを拾う前の写真と拾った後の写真をアップするなどの掲載活動をしたい。

3. 調査結果を踏まえた方向性(案)

- ① 環境保全に係る問題と解決方策・効果のパッケージの提示が重要である。
- ② 先進団体の取組事例は、上記パッケージに基づく情報提供ができればわかりやすい。
- ③ 委員会としては、相談対応も含め人材育成・派遣による伴走支援機能が求められる。